週　報

国際ロータリー第 2660 地区　　令和 3 年 9 月 7 日

豊中ロータリークラブ

第 2508 号

広めよう　ロータリーの心　地域とともに

SERVE TO CHANGE LIVES

創立 1959 年 6 月 16 日

2021～22 年度
国際ロータリー会長
Shekhar Mehta
（奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために）

Rotary

2021.7～2022.6
会　　長　森本博明
副　会　長　北村公一
幹　　事　小川佳伸
雑誌･広報･会報委員長
澤木政光

本日（9 月　7 日）のプログラム

「コロナウィルスと
ワクチンの基本科学について」

卓話担当：Yugoviandi Primanda Mamahit

次回（9 月 14 日）のプログラム

「写真と生活」

卓話担当：畑田　耕一

☆会長の時間☆

「変革期」

2021-22 年度　会長　森本博明

緊急事態宣言発令中の中、8 月 28 日土曜日 10 時から 11 時 40 分まで ZOOM による公共イメージ向上並びにクラブビジョン策定セミナーが開催され、クラブ青少年奉仕合同委員会委員長会議は午後から開催されました。

緊急事態宣言が 9 月 12 日までの再延長の為、9 月 4 日のクラブ米山委員長カウンセラー研修会及び地区ロータリー財団セミナーは ZOOM 開催される予定です。当初、大阪 YMCA 国際文化センターで行われるはずでしたが、先行きがまだまだ不透明なコロナ禍の影響で予定が度々変更されるのも仕方ない事だと思います。

大規模な研修会、セミナー、会議では今後、利点としてはズーム方式の方が良いのかもしれません。主催者側からの説明が主体であることを踏まえると、移動時間、経済性とか利便性が多いです。そして何より現時点の最大のメリットはコロナ感染予防に繋がります。

しかし不安材料としては、今まで通りの人間らしい関係が保てるのでしょうか？実際にその場所に行き体験する事が、より記憶に深く刻まれる気がします。何か薄っぺらな感じがしてきます。その様に思うのは私だけでしょうか？ただ人類は今までもいくつもの困難を乗り越え進歩してきました。今はその時期に来ている、大きな変革期なのだと思います。

今までもずっと言われていますが、我々ロータリアンも原点に戻り変えなければならないこと、変えてはいけないことを検討する時期に来ているのではないでしょうか？（令和 3 年 9 月 3 日）

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551　FAX 06-6857-0011
例　会　日　時：毎週火曜日 12 時 30 分より
事　　務　　局：10 時～16 時（土日祝を除く）
ＨＰアドレス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/
メールアドレス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

○幹　事　報　告○

・〈公財〉米山記念奨学会より
「ハイライトよねやま　２５７」が届きました。
▼全文は、こちらよりご覧ください。
http://www.rotary-yoneyama.or.jp/content/uploads/summary/highlight257_pdf.pdf

☙ 掲　示　板 ❧

・豊中 RC　秋の親睦ゴルフ
日　　時：2021 年 9 月 26 日（日）　集合 8：00
　　IN 8：16　OUT 8：24 スタート
場　　所：オリムピックゴルフ
　　兵庫県三木市細川町瑞穂 1369-2

・クラブ国際奉仕委員長会議
日　　時：2021 年 10 月 23 日（土）　午前中
場　　所：大阪 YMCA 国際文化センター（予定）

・クラブ社会奉仕委員長会議
日　　時：2021 年 10 月 23 日（土）　午後
場　　所：大阪 YMCA 国際文化センター（予定）

※国際奉仕・社会奉仕両会議は ZOOM になる可能性有り

・〈公財〉米山梅吉記念館より
「館報秋号 38 号と寄付のお願い」が届きました。

・豊中商工会議所より
「2021 年度豊中市 10 団体ゴルフの中止」が届きました。

・摂津ロータリークラブより
「秋の RYLA セミナー案内と参加者募集」が届きました。

🌸9 月のお祝い🌸

9 月のお祝いは、例会開催時に 8 月のお祝いと一緒にさせていただきます。
よろしくお願いいたします。

☙8 月 24 日の誌上卓話❧

「インスリン発見 100 周年　よもやま話」

卓話担当：松山　辰男

インスリンの名前は、最も有名なホルモン、生体内活性物質で、どなたもご存知でしょう。100 年前の 1921 年は、糖尿病研究者にとっては、忘れてはならない歴史的な年です。カナダのトロント大学実験室で、犬の膵臓を手術で摘出すると糖尿病が発症し、膵臓から抽出した液体を注射すれば元気になることで、膵臓に糖尿病を治す物質があることがわかり、アイレチンと名付けられました。生体内活性物質は今でも次々と発見されていますが、インスリンはまだホルモンという考えが確立する前に、最も早くに見つけられたホルモンの一つです。今年はインスリン発見 100 周年にあたり、数年前から、世界の糖尿病学会、研究団体、患者団体などで、記念行事が計画されてきましたが、新型コロナウイルス蔓延の影響でほとんどが中止やオンライン開催になっています。

当時、比較的裕福な社会で発症が見られた糖尿病は、一旦発症すれば、体が尿に溶け出していき、飢餓療法という、ほとんど食べないことで、なんとか命を繋ぐなどの延命法はあっても、1 年以内には体が消えていく原因不明の恐ろしい病気でした。インスリンの発見は、「奇跡の薬」とされて、待ちかねたように翌年には、ヒトに投与されはじめ、毎日 10ml ほどの注射が必要だったと言われています。アメリカ大統領候補であったヒューズの娘は、11 歳の時に糖尿病を発症し、施設に収容され、厳格な飢餓療法で命を繋いで死を待つばかりであったところ、14 歳の 1922 年からインスリン注射を受けて、その後 24 年間元気に生き延びた話が伝わっています。インスリンの発見では、糖尿病の原因解明も大きく進展するきっかけになりました。

日本でも、藤原道長は糖尿病という記載こそありませんが、症状はまさに無治療の糖尿病の経過でありました。紀元前にエジプトでも糖尿病らしい記載があることより、古くからある病気ですが、原因となる環境によって一旦発症すると、子孫を残すことができず、糖尿病になりやすい体質は淘汰されて、今ほど糖尿病は多くなかったと思われます。

今でもインスリン専門薬品会社であるノボノルディスクとイーライ・リリーの前身であるデンマークとアメリカの研究者によって、ヒト用のインスリンは大量生産され始め、日本でも、すぐに使われはじめました。私の医師免許は 1966 年、糖尿病を専門に診療始めたインスリン発見 50 年目ごろには、ウシインスリンが主流でした。100 グラムのインスリンの結晶を得るのに 1 トンの膵臓が必要で、ブタ、日本ではボニト（カツオ）インスリンも使われましたが、ペプチド構造が解明されてからは、ヒトインスリンとアミノ酸が 1 つ

しか違わないので抗体が出来にくい、ブタインスリンが主に使われるようになりました。
　ペプチド合成技術の発達により、1979 年にはヒトインスリン製剤が登場します。ここからは、血糖測定の技術発達と、糖尿病特有の合併症予防のための血糖値の正常化を目標にすることで、生活の質の向上を目指す工夫をした、数多くのインスリン製剤が研究合成され、2001 年にはヒトインスリンとは構造の異なる、超速効型のインスリンや、24 時間一定量の血中濃度を保つ超持効型のインスリンも合成され、それらをプレミクスして、注射回数を減らす工夫などで、新しいインスリン製剤が次々と登場しました。
　この 1～２年では、インスリン分泌能が少しでも残っている患者さんには、基礎インスリンに、食後にインスリンを分泌させるインクレチンを配合した製剤で、１日４回必要な注射を１回で済ませるインスリンが発売されました。
１回の注射で１週間効果が続く基礎インスリン製剤の治験もされています。発売され始めた超々速効型インスリンも生活の質の向上のためであり、最近の糖尿病治療は、いかにして、健康な人と変わらない生活をして、一生を終えるかを目指しています。インスリン製剤の名前は、今や 50 以上存在しています。
　人工膵島や膵臓移植は永年の夢です。一部で実用化されていますが、一生をカバーするまでには至りませせん。投与する場所が本来の膵臓とは異なり、末梢組織であることも、今後の課題として残っています。認知症の予防や治療に鼻粘膜吸収インスリンも注目されて、医学研究の進歩で、まだまだ新しい製剤の登場の余地はあります。
　インスリンは糖尿病を治す手段として改良を重ねられて来ましたが、並行して内分泌学を起こし、さらには医学全体にも、新しい疾患の発見、解明、治療など、研究そのものに大きく発展進歩をもたらしました。振り返れば、インスリンの発見は、現代医学の芽生えでもありました。

第１回豊中ロータリークラブ ZOOM 談話室報告　（2021 年 8 月 23 日 20 時開催）

出席者：小川、北村、小寺、米田、武枝、田中、都井、真下、松山、宮田、村司、森本（敬称略、五十音順）

今回 12 名の参加があり主に次の 2 項目について約 1 時間話し合いました。
・新型コロナウイルス感染症（以下コロナと略）の影響
・今後のロータリー活動について

出席者は全員予防接種 2 回終了。ご自身だけでなく従業員の健康にも留意、従業員家族の感染により休業した例もある、コロナのために休業し収入減、ほとんどステイホームの状態で被害はなし、例会が休みで寂しい、コロナ直接ではなく減収・失業などの社会的な要因で経済的に苦しい状況が目立っている、今後はゼロコロナではなくウイズコロナでゆくべきで全ての社会生活を止めると何のために生きていることになるのか、最近ＰＣＲ陽性者が増加しているが元気なひとが多い、等の発言がありました。
例会については感染対策を担保して例会が感染拡大の場にならないように留意し例会はやってもよいと思う、食事付きの親睦会、家族会は中止する、会員のワクチンの接種状況をみて通常例会に戻す準備をする、等の意見がありました。RI は、例会は自粛、活動として住民にワクチン接種を積極的に勧めるよう会員に要望している。
ロータリーデーについてはまだ地区からは指示は来ていない、と報告がありました。
緊急事態宣言下で例会休会中であってもいろいろな形でロータリー活動は続けてゆきたいと思っています。
「早く皆様とお会いしたいです」との小寺会員の言葉を最後に談話会は終了しました。
次回 9 月 27 日　20 時から　　（文責　北村公一）